



【特集】

技 将来の介護に備えて、リフォーム ～水回りを一新し、バリアフリー化～

ナチュラルブラウンを 基調にした明るい空間に

高齢社会を迎え、将来の家族の在宅介護に備えて、介護しやすい家づくり、暮らしやすい空間創造を考え、リフォームを行うケースが増えている。高岡市の郊外に建つK邸もまさにそんな事例だ。「リフォーム箇所は、トイレ、浴室、洗面所の水回りと外壁。築三十年ほどで傷みが目立ってきたことや、足腰はしっかりとっているものの、高齢の父親が生活しやすいようにリフォームを行いました」とご主人。

これら水回りは、平屋建てのブロック造りの空間にまとまっており、台所や廊下側から入ると、大きな段差があつて、とても使いにくかつたという。そのため段差のないバリアフリーのフロアーがご家族の一番の要望だった。施工では、これまでの躯体を生かしたことで既存天井スラブに合わせて天井仕上げを行う必要があり、設計に苦労したという。

トイレ、浴室、洗面所の位置は、介護者がお父さまをスムーズに介助できるように、車椅子使用など、いろいろな場面を想定して決めた。中央に四帖半ほどのホール・洗面室を配置し、左手にトイレ、右手に浴室をレイアウト。トイレや浴室の入り口の幅を広めにとり、車椅子が進入できるようにした。トイレは小便器と洋式便器を別々に設置。小便器のほうは引き戸、洋式便器のほうは三枚の引き戸で開放できるように工夫。ホールやトイレは、人感センサー付きで、人が近づくと照明が点灯する仕組みが取られている。洋式便器の蓋には人感センサーで自動的に昇降する機能が付いているのも特長。便座の横には大きな手すりがあり、座ったり立ったりの際の動きをサポートしてくれる。

● 車椅子の使用を想定して

脱衣室には洗濯機が置かれ、衣服をすぐに洗濯できる。窓の横や洗濯機の奥のデッドスペースに収納棚を設けるなど、限られた空間を効率よく生かした設計の技も光る。

浴室には、一・五坪タイプの広々としたユニットバスを採用。オフホワイトを基調にした明るい雰囲気、介護者が介助しやすいように広めに取られた洗い場が印象的だ。

床は排水性がよく滑りにくいタイプ。壁面に手すりも設けており、高齢者も安心して入浴できる。手すりは家族の身長などに合わせ、バスタブ横と洗い場の壁面二カ所に設置したという。

「シヨールームでユニットバスや便座、洗面ユニットを実際に見ながら、使い勝手やデザインを検討いただきました。それぞれの位置関係が確認でき、適切に配置できたと思います」と施工担当者は目を細める。

介護を想定して、リフォームを行ったK邸。家族を思う気持ちが随所に感じられる、あたたかい住まいとなった。



▲バリアフリー化で既存の空間との段差がない。



▲風格のあるK邸の外観



▲勝手口下部のデッドスペースも有効活用。



▲洋式便器の横には、使い勝手のいい手すり。



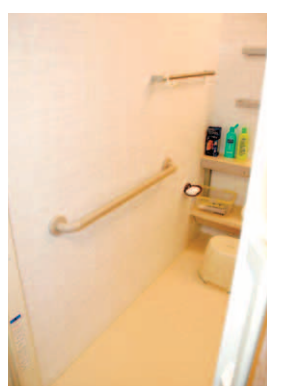
▲小便器と洋式便器を設けたトイレ。中央のホールに洗面所を設置。



▲タオルなどが収納できる棚。



▲1.5坪タイプの広く明るい浴室。浴室の壁面に設けた手すりが転倒を防いでくれる。



今月のオーナー訪問



高岡市 K様

『シヨールームで 装備品をじっくり検討』

寒くて、暗かった浴室やトイレが見違えるほど明るく、きれいになりました。段差が解消され、本当に使い勝手がよくなりました。またセンサー付きの照明や手すりがないと負担をかけるので、身体に支障を及ぼさず、満足しています。

シヨールームで説明を受け、ユニットバスやトイレの便器をじっくり選んだことも、満足度の高いリフォームにつながったと思います。



技のリフォーム

イワサ ミセマス
0120-183-304